

## 教皇フランシスコ、2020年3月22日「お告げの祈り」でのことばと、 新型コロナウイルスの感染拡大にあたっての呼びかけ

兄弟姉妹の皆さん、

パンデミックの脅威に全人類が動揺しているこの試練の日々に、わたしはすべてのキリスト者の皆さんに、天に向かって声を合わせるよう提案したいと思います。すべての教会指導者とすべてのキリスト教共同体の指導者、そしてさまざまな教派のすべてのキリスト者の皆さんに呼びかけます。わたしたちの主イエスが教えてくださった祈りを、いと高き全能の神に向かって一斉に唱えましょう。ついては、一日に何度も祈るようお願いしたいのですが、この水曜日、3月25日の正午（日本時間午後8時）には、全世界で一斉に「主の祈り」を唱えましょう。おとめマリアへのみことばの受肉の告知を多くのキリスト者が記念するこの日に、主が、復活されたキリストの勝利を祝う準備をしているすべての弟子の一致した祈りを聞き入れてくださいますように。

次の金曜日、3月27日の18時（日本時間28日午前2時）には、同じ意向のために、聖ペトロ大聖堂の前庭で、無人の広場を前に、祈りの時を主宰します。コミュニケーション・メディアを通して、この時刻から霊的に参加するようお願いしたいと思います。わたしたちは神のことばを聞き、祈りをささげ、聖体礼拝を行います。その後、わたしは「ローマと全世界へ（ウルビ・エト・オルビ）」の祝福を送ります。その祝福によって、全免償（注）を受ける可能性が付与されます。

新型コロナウイルスのパンデミックに対して、全世界の祈りと思いやり、優しさで対抗していきましょう。一致を保ちましょう。独りぼっちで試練に立ち向かっている人々が、わたしたちがともにいることを感じられるようにしましょう。わたしたちは、医師や医療従事者、看護師、ボランティアの皆さんに寄り添います。わたしたちのためとはいえ、厳しい措置を講じなければならない関係当局と、わたしたちはともにいます。わたしたち皆のために政府が求めていることが遂行されるよう、路上で秩序の維持に努めている警察官や兵士の皆さんに寄り添います。わたしたちはすべての人とともにいます。

（注）「ウルビ・エト・オルビ」の祝福に際して与えられる全免償は、テレビやインターネット、ラジオを通して、祝福にあずかり、自分の罪を悔いて、定められた祈り（「使徒信条」「主の祈り」「アヴェ・マリアの祈り」）を唱え、できるだけ早く「ゆるしの秘跡」を受け、聖体拝領することを約束することによって受けられます。免償とは、すでにゆるされた罪にともなう有限な罰のゆるしです。成聖の恩恵の状態にあり、定められた条件を満たす者に、教会は免償を与えます。